

岡崎市議会議長 様

会派名
代表者名

無所属・参政党
伊藤 正義

支出番号	
------	--

以下のとおり、政務活動を実施したので報告します。

政 務 活 動 報 告 書

令和8年4月13日提出

活動年月日	令和8年1月8日（木）～ 1月9日（金）	
氏名	伊藤正義	
用務先 及び 内 容	1 1月8日	用務先 東京都
		内 容 地域未来ビジョン創造セミナー
	2 1月9日	用務先 埼玉県さいたま市
		内 容 保育行政のあり方について
	3 月 日	用務先
		内 容
	4 月 日	用務先
		内 容
備 考		

政務活動調査報告書

視察日	令和8年1月8日
視察場所	東京都中央区
視察目的	地域未来ビジョン創造セミナー
視察者名	無所属・参政党 伊藤正義

概要と考察

■AI がもたらす未来～人工知能の現在とこれからの社会～

講師：東京大学薬学部教授 池谷裕二

【概要】

・脳と人工知能

分野によってどちらが優れているか異なる。

将棋、囲碁などの中で最も難しいと言われている囲碁においても人間に AI が勝つようになった。

「直感（大局観）」「創造・発想」「芸術」という、人間にしかできないと思っていたものを AI ができるようになっている。

・人間にしかできないことは何か？「人は人らしさを誤解している」

・映像生成 AI の躍進。「動かぬ証拠の空洞化」AI で画像、動画などが作れてしまう。本物と見分けがつかないクオリティになっている。

・職場で AI を導入すべき基準

週に3時間以上その作業をするのであれば AI で自動化する。

・気が利く、気遣い、カウンセリングは AI で代替できるのか。

気が利く、気遣いとは機械的な作業。AIの方が得意なことがある。

そもそも人間は気が利かない、気遣いができないから、それを人に求める。

アメリカの調査で、うつ病などのカウンセリングも人間より AI を選ぶ患者が7割。

プライベートな質問なども気兼ねなくできる。どんな話をしても態度も表情も変わらない。

・「鳥のような羽毛がなくても、飛行機が鳥より早く飛ぶように

人のような心がなくても、人工知能は人よりも心をよく察知する」

nature 論文 ～Reboot for the AI revolution～ から

・「AI の振り見て我が振り直せ」AI が得意なこと、人間が得意なことがある。

人間が不得意なことを AI が補完してくれている。AI の行動を見て人間が自分の行動を見直すことができる。

- ・生成 AI の活用で偏見・差別が助長される。なぜならばそもそもネット上に偏見、差別があるから。人種平等などを言っているにもかかわらずネット上には人間の好みや偏見が満ち溢れていて、そこから AI は探してくる。
- ・AI を活用することで自分の誤り、足りないことがわかる。

【考察】

AI は日々進化しており、できることが増えている。ただ、良い面だけでなく、映像生成 AI の進化で本物と偽物の区別がつきにくくなっている、学生が AI を使ってレポート作成するなどのマイナス面もある。AI があることのみを持って人間の生活や仕事が良くなるわけではない。結局は人間が AI をどう使うかであり、人間にしかできないこと、AI に任せたら良いことを考えて活用すること、人間が倫理観を持って使うこと、悪意を持って使う者がいることなどを考えて AI を使う必要がある。

■漁業から見た日本の安全保障問題～国境紛争と外国人依存～

講師：北海道大学大学院水産科学研究員教授 佐々木貴文

【概要】

- ・日本漁業と漁村の衰退の現状

日本の漁業生産量はピーク時の 3 分の 1 にまで低迷しており、遠洋漁業の衰退や近隣諸国の台頭により苦境に立たされている。漁業歳出額：1990 年代初頭は 2.7 兆円→近年は 1.5 兆円まで減少。

それに伴い、漁村でも過疎化や漁業就業者の減少・高齢化が進行している。水産資源の管理と産業の成長化を両立させる政策が求められているが、水産関連予算は長年にわたり横ばいのまま。

- ・栄光の時代から「200 カイリ時代」への暗転

かつての日本は、「公海自由の原則」を活用し、ロシアや南洋など世界中で漁業を展開してきた。外貨を獲得して軍艦を購入するなど「稼ぐ産業」として国力を支え、戦後も食料不足の中で急速に再膨張して世界最強の地位を築いてきた。しかし、1977 年に「200 カイリ時代」が到来し、公海自由の原則が制限されたことで状況は暗転。日本は海外の豊かな漁場から締め出され、日中・日台・日ソの各種漁業協定においても周辺国に対して譲歩や不利な状況を強いられるようになった。

- ・過酷な労働環境と深刻な人材不足、さらなる外国人依存のリスク

漁船での労働は、狭小でプライベート空間がほとんどない未整備な居住環境や、他産業よりも高い労働災害発生率を伴う「危険・きつい」環境にある。このため深刻な労働力不足に陥っており、2040年頃には漁業就業者が7万人程度まで減少する可能性も指摘されている。

現在、日本漁業は技能実習生や特定技能などの外国人労働力に強く依存しており、その結果、日本人が経験を積んで船長や機関長（海技士）にステップアップする機会が失われ、現在では遠洋漁船の機関長の平均年齢が70歳代に達するなど、幹部船員の枯渇が極めて深刻な問題となっている。

さらに今後は、人材不足を補うために特定技能人材を海技士候補として活用するなどの「さらなる外国人依存」が進むと見込まれている。そして、彼らが日本に長く滞在して「永住者」の在留資格を得た場合「外国人漁業規制法」の対象外となり、外国人による日本の漁業経営が可能になるという事態が生じる。

また、漁業権を取るためには、漁業組合員にならなければならないが、組合員に外国人がなれるのかがポイント。今は漁業規制法でなれないが、特定技能制度から「永住権」を持つとそのまま漁業組合員になれるとなるのか。改正漁業法で知事の権限が強くなった。知事の判断で誰に漁業権を与えるか決まってしまう。

漁船漁業は、警察権の及びにくい領海や排他的経済水域（EEZ）で活動し、近隣諸国との間で漁場を共有することによる摩擦や紛争リスクが存在する「国境産業」である。そのため、漁業における外国人労働力への過度な依存は、陸上産業での外国人受け入れとは根本的に意味が異なり、国家主権や安全保障に関わる重大なリスクをはらんでいる。

・周辺諸国の台頭と安全保障上の脅威

周辺国は漁業を国家戦略と位置づけて海洋進出を強めている。ロシアは北方領土を積極的な投資対象として漁業基地化している。また、台湾や中国の漁業勢力は躍進しており、特に中国は尖閣諸島周辺への領海侵犯を繰り返すなど、漁船を「尖兵」として主権の誇示（国境紛争）に利用している。さらに、中国系の華僑・華人資本は南太平洋や東南アジアの漁業にもネットワークを拡大させており、日本の排他的経済水域（EEZ）内にミサイルが撃ち込まれるなど、安全保障上の危機も現実の視界に入ってきている。

・漁業は「第三の海軍」という切ない現実

漁業は単に食料を供給するだけでなく、領土・領海を保全し国家主権を守る「国境産業」であり、海上警察組織に次ぐ「第三の海軍」である。漁業は国家の力で発展もするし、衰退もする。

1 海軍

2 海上保安庁

3 漁業

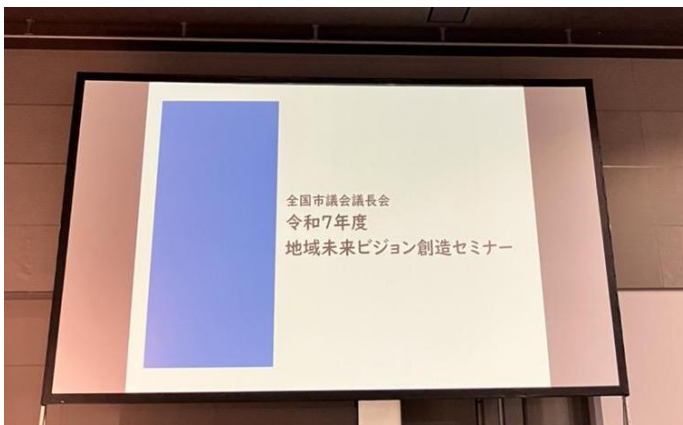
海洋国家である日本が復活するためには、漁業が安全保障に直結するという認識を持ち、強豪国との競争に打ち勝つための「人材」と「権益（漁場）」の確保に立ち向かう必要がある。

【考察】

漁業を守ることは雇用、食、経済の問題だけでなく、国の安全保障にもつながるという視点は大変興味深く、漁業の衰退をもっと真剣に考えなければならないと気づかされた。

岡崎市に海はないが、今まで通り私たちが安心して国に暮らし、食を守るためにも日本の漁業の実態を知り、対策を打っていかなければならない。海に面した近隣市は魚が年々取れなくなっていることに危機感を抱いているが、海と川、山はつながっており、豊かな山と川を持つ岡崎市も環境問題、森林整備の問題に向き合い対処していくことが、漁業の問題解決にもつながると思うと、他人事では決してない。

今後も環境、産業、食、安全保障について複合的に考え、山川海を守っていききたいと思う。



政務活動調査報告書

視察日	令和8年1月9日
視察場所	埼玉県さいたま市
視察目的	保育行政のあり方について
視察者名	無所属・参政党 伊藤正義

1. さいたま市の概要

人口 1,351,872 人（令和7年4月現在）、面積 217.43 ㎡

さいたま市は、埼玉県の南東部に位置する県庁所在地。古くは中山道の宿場町として発達してきた歴史を持ち、現在は東北・上越など新幹線6路線を始め、JR各線や私鉄線が結節する東日本の交通の要衝。平成13年5月に旧浦和・大宮・与野の3市合併により誕生し、平成15年4月1日には全国で13番目の政令指定都市となった。平成17年4月1日には旧岩槻市と合併。さいたま市では、従業者の80%以上が商業・サービス業などの第三次産業に従事している。

2. 概要

■幼児教育・保育研究センター事業

幼保小連携に力を入れているが、うまく行っている学校とそうでない学校がある。

学校によっては20の幼保がある学校もあり、全ての幼保と学校が連携できているわけではない。

○幼児教育・保育人材に対する研修の企画及び実施

保育者資質向上研修会：管理職への研修、新任保育者研修など

公開保育研修会：幼保小の保育士、教諭、管理職など参加しての意見交換会。幼児教育、保育の質の向上と、幼保小の連携強化に繋がっている。

○幼児教育・保育施設に対する相談業務

幼児教育・保育相談員派遣事業：

・相談可能な内容 特別な援助や支援が必要な児童への関わり及びその児童を含むクラス運営についての具体的な関わりや支援等、幼児教育と小学校教育の連携及び接続 など

・相談員 大学や保育士養成校の教員、臨床心理士など

最近発達に遅れがある子の相談が多くなっている。昭和50年から相談業務をやっている。1日相談員が行き、相談を受ける。

○幼児教育・保育と小学校教育の連携・接続

保育者小学校等体験研修：保育士等が小学校で1日教諭体験をする。特別支援学級で体験研修したいとの希望が増えている。

教育委員会との連携：幼保小連携教育研修会、教師力パワーアップ講座を開催。今後も「架け橋期のカリキュラム」の内容を充実させる。

■子育て支援について

○孫育て支援（講座の開催、さいたま祖父母手帳の発行）

現在の育児方法を学んで父母と関わってもらおう。

- ・祖父母手帳：R5年度5000部発行
- ・孫育て講座を年間各区で1回実施している。

3歳以降は大宮のみで実施。

単独型子育て支援センターで0～3歳までの講座を各区で行なっている。

R6年度 延べ315人参加

講座受講後のアンケートで、子育てボランティアを今後していこうと思っているかの割合がR2年度5割からR6年度は8割へ増えた。

○父親の育児参加促進（1日保育士・幼稚園教諭体験、父子手帖）

- ・父子手帖 R6年10,000部 妊娠の届けの時に渡している、各区役所の支援課で設置している。
- ・パパスクール：R5年度130名、R6年90人

昔は妻に言われて参加していた方が多かったが、今は自分で進んで参加している方が増えた。

- ・1日保育士・幼稚園教諭体験

目的：父親等が直接保育を体験することにより、子育てへの関心をさらに引き出し、父親等の育児への参加を促進する。また、自分の子ども以外の子どもと関わりを持つことにより、子どもの多様性や成長過程における育児に対する理解を深める。さらには保護者と施設の相互の理解を深めることを目的とする。

対象者：在園する子どもの父親等。母親も可能。

実施時間：9～14時までの可能な時間。一緒に給食を食べて終わるくらい。短時間でもOK。

参加人数は、年間20～30人くらい。父親の方が多い。

メリット：保育現場の実情の理解につながる。保育士との関係がよくなる。

財政的なハードルはないので自治体で導入しやすい。保育士との関係性がかわることで保育園にもプラス。

現状の課題：公立保育所では全園で実施しているが、その他の施設では未実施施設がまだ多い（実施は1割程度）。各施設への事業実施依頼回数の増加や実施園での事例紹介などを行っていく必要がある。

子育てに関心がある方々は毎年のように参加しているが、子育てにあまり関心がない方に対してどのような周知、働きかけを行うかが課題。

■保育士の育成及び確保の取り組み

○保育施設の見学会の実施

○給与等補助

- ・職員給与上乗せ補助 さいたま市独自で月額 10,500 円、期末手当 67,500 円支給
- ・家賃補助 月額上限 72,000 円
- ・奨学金返済支援 最大 90 万円（年 18 万×最大 5 年間）

○保育士研修の実施

○潜在保育士の現場復帰支援

潜在保育士就職支援セミナー、保育補助者としての雇用促進、就職準備金貸付事業（最大 40 万）

○子どもを持つ保育士支援

子どもの優先的入所、保育料の一部貸付

○保育士資格取得を目指す方の支援

保育補助者の雇用促進（保育補助者を新たに雇用する法人に補助）、資格取得のための費用の支援

3. 所感

親が子育てを保育所（行政）に頼りすぎていないか、保育がサービスとなり親がお客様になってしまっていないか。この点がとても気になっており 1 日保育士体験をもっと知りたいと思い視察をお願いした。保育士体験はとても効果的で親の保育士・保育園への理解が進み、コミュニケーションをとるきっかけになるということから岡崎市でも導入できないか話を進めていきたいと思う。

その他にも孫育て、幼保小連携など、様々なことに力を入れていることがわかりとても参考になった。子育ては親だけでなく、祖父母、地域が一緒になって行うことが大切だと思っており、それが母親の負担軽減、高齢者の生きがい、地域の繋がりを取り戻すこと、地域の安全にもつながり、何より子どもにとって最もよいことだと思う。

母親が働かず、保育園に子どもを預けずに安心して子育てに専念できる社会にすることが一番だと思っているが、経済状況など鑑みてなかなかそうはいかないので、現状子どもにとって最善のことができるように今後も考え取り組んでいきたいと思う。

